

常陸大宮市
義務教育施設適正配置 実施計画
～教育資源の有効活用にむけて～

平成 20 年 7 月
常陸大宮市教育委員会

はじめに（答申を受けて）

我が国は、国際化、高度情報化、少子高齢化などの様々な面で急速に変化してきている。このような状況の中で、教育の分野においても大きな転換期にあり、通学区域の弾力的運用など教育の規制緩和と分権化の進行によって、様々な教育改革が進められている。

茨城県においては、平成 20 年 4 月に公立小・中学校の適正規模についての指針が示され、その中で県として児童生徒のより良い教育環境や学習環境、人間関係の構築などから望ましい学校の目指すべき姿が示された。

常陸大宮市では、『のびやかな人・文化を育むまちづくり』を推進するため、国際化に対応した教育の推進、子どもの健康と安全を守る学校保健・学校安全の充実など、教育環境の整備を進めてきたが、近年における社会状況の変化により、これまで以上に学校・家庭・地域の連携を図り、子どもたちが安全・安心に育ち、学ぶ環境づくりを行うことが重要となっている。

また、平成 16 年 10 月の町村合併により、教育委員会所管の施設は、小学校 19 校、中学校 7 校、幼稚園 4 園及び給食センター 4 ヶ所等となったが、少子化の影響は深刻であり、現在市内小学校の 4 校において、複式学級による授業が行われている。今後は、児童生徒数が平成 25 年度までには約 15% の減少が見込まれるなど、学校運営等への影響が懸念されている。

さらに、小中学校の施設は、災害時における地域の緊急避難場所の役割を果たす施設であるが、新耐震基準施行（昭和 56 年）以前に建築された施設は、校舎 14 棟、体育館 14 棟となっており、全体的に老朽化が進んでいる状況のなかで、早急な対応が迫られている。

以上のような状況を踏まえ、常陸大宮市教育委員会では、義務教育施設適正配置審議会条例第 2 条に基づき、平成 17 年 11 月に常陸大宮市義務教育施設適正配置審議会に諮問し、平成 19 年 11 月に、本市の義務教育施設等の適正な配置と施設整備を計画的に進めるための基本的な考え方についての答申を得た。

常陸大宮市教育委員会は、答申で示された「望ましい学校規模」としての適正規模に基づき、学校と地域の歴史やコミュニティの結びつき等を考慮しながら、教育資源の有効活用を図るための実施計画を示すものである。

【目次】

(1) 小中学校の再編に関する考え方	1
1) 再編に関する考え方	1
2) 計画期間	1
3) 再編に伴う諸課題の取り扱い	2
(2) 小中学校再編の流れ	3
1) 前期における再編の流れ	3
2) 後期における再編の流れ	3
3) 再編後の学校の在り方	4
(参考)	
■小学校の適正配置（参考：要約図）	5
■中学校の適正配置（参考：要約図）	6
■小中学校の児童生徒数の推移（再編前）	7
■小中学校の児童生徒数の推移（再編後）	8
(3) 小中学校再編	9
1) 小学校の再編	11
■大宮地域の再編	11
（市街地の再編）	12
■山方地域の再編	13
■美和地域の再編	14
■緒川地域の再編	14
■御前山地域の再編	15
2) 中学校の再編	16
(4) 小中学校再編のスケジュール	17

(1) 小中学校の再編に関する考え方

1) 再編に関する考え方

① 基本的事項

答申書に示されたとおり、小学校の再編は、速やかに取り組むべき課題であることから、答申で示された適正規模に基づき検討を行うものとする。

■ 小学校の望ましい規模

常陸大宮市における小学校の適正規模 6 学級～16 学級(1 学年 1～3 学級程度)

なお、地域の成り立ち(コミュニティ)や地理的条件などの理由で、「1 学年 1 学級の学級編制となる場合は、概ね 20 人以上」を小学校の標準規模とする。

常陸大宮市における小学校の適正配置

今後、過小規模校及び小規模校となることが予測される小学校については、小学校の適正規模を満たすよう施設規模や地理的条件などを考慮した上で適正に配置する。また、遠距離通学となる場合はスクールバスなどによる通学支援を検討する。

【1 学級の人数の考え方】

- ① 複式学級の解消を図る。
 - ・適正規模の観点から複式学級(2 つの学年で 16 人以下)を避ける。
- ② 1 学級 40 人を基本とするが、1 学年 1 学級の場合は、概ね 20 人以上を標準規模とする。
 - ・市民アンケートによる「40 人に満たない場合は 20～30 人」を反映する。
- ③ 既存の施設を利用する。
 - ・現在の校舎の活用と施設規模を踏まえた学級編制を前提とする。

■ 中学校の望ましい規模

常陸大宮市における中学校の適正規模 6 学級～15 学級(1 学年 2～5 学級程度)

なお、地理的条件などの理由により適正規模を満たす学級編成が困難で「1 学年 1 学級の学級編制となる場合は、概ね 30 人以上」を中学校の標準規模とする。

常陸大宮市における中学校の適正配置

小学校の再編による通学区を基本とした学区の変更を図ることや、既存の学校施設の状況や生徒の安全確保等を念頭に置いて、学校の統廃合による適正配置を行う。また、遠距離通学となる場合はスクールバスなどによる通学支援を検討する。

【1 学級の人数の考え方】

- ① 原則として 1 学年単学級の解消を図る。
 - ・クラス替えにより、新しい仲間との出会い、刺激、自己発見、人間関係を学ぶ。
- ② 1 学級 40 人を基本とするが、1 学年 1 学級の場合は、概ね 30 人以上を標準規模とする。
 - ・市民アンケートによる「40 人に満たない場合は 30 人」を反映する。

2) 計画期間

- ① 計画期間は、平成 21 年度から平成 30 年度までの 10 年間とする。
- ② 計画期間を 5 年ごとに前期、後期の 2 期とする。

ア. 前期については、複式学級解消及び小規模化の著しい小学校の再編スケジュールを示す。

イ. 後期については、小規模化の著しい中学校の再編スケジュールを示す。

ウ. ただし、計画期間にとらわれず、環境が整い次第、計画を実施する。

3) 再編に伴う諸課題の取り扱い

①円滑な再編のための取り組み

今後、統合の対象になった学校においては、実際に統合が行われるまでの期間があることから、この間も、各学校は子どもたちが引き続き充実した学校生活を送り、適切な教育が受けられるようにする必要がある。また、新入生数が少なくなっても、再編が行われるまで教員数を確保して学級を維持し、充実した教育が受けられるよう努めることが重要である。さらに、統合の対象になった学校では、統合する学校間で合同の交流活動を進め、統合を円滑に行う工夫を行う。

これらの課題に対応すべく、教育委員会においては、平成 20 年 4 月に適正配置推進室を設け、学校と十分連携を取りながら、新しい意欲的な取り組みを行う体制づくりを進めているところである。また、統合校設置時においても、新校が円滑にスタートできるよう、教員の加配や統合対象校からの継続的な人員配置など、人的措置を含めた支援を行うよう努める。

②再編による通学区域の見直し

通学する学校については、教育委員会が指定しており、指定された学校の変更を希望する場合には、理由に応じて教育委員会が承認することになっている。学校再編に伴い、在学中に統合することになる学校への入学予定者については、再編後の新たな通学区域や通学距離などを考慮し、また、統合の時点での在校生についても、交友関係や通学距離や対象校の状況などを勘案しつつ、地域の実情に合わせ、保護者や地域の方々の意向尊重しながら、通学区域の弾力的な運用を検討する。

③再編による通学の支援対策

具体的な学校の再編にあたっては、既存の通学区域を尊重しながら、幹線道路や鉄道の横断などについて配慮した通学区域の設定に努めたが、校舎の位置の制約などから、新たに幹線道路や鉄道を横断する通学区域を設定したところがある。こうした学校については、学校と地域ボランティアの連携強化を図るなど、通学の安全安心について十分配慮する必要がある。また、通学支援の観点から、スクールバス・市民バス・路線バス等の運行を検討するとともに、道路管理者に対する安全安心な道路整備への働きかけを継続的に行う。

④再編にあたっての手順

学校の再編は、学校が地域のシンボル・財産として多くの地域住民から親しまれていることを踏まえると、当該学校のみならず、周辺地域に大きな影響を与えることとなる。

統合新校は、廃止される各学校の歴史を継承することから、学校は統合されても、これまでの歴史は脈々と受け継がれていく。学校を廃止して、新たな学校として統合する場合、新たな名称や特色、学校指定品の扱いなど、細部にわたって詰めなければならない課題も多くある。さらに、統合に伴って改築を行う場合には、新校舎の構想や計画をまとめる段階から、広く住民の意見を採り入れて進める必要がある。

これらのことから、学校の統合は、関係者や地域住民の参加のもとに進めていくことが求められる。そこで、統合の組み合わせごとに(仮称)学校統合委員会を設け、これらの検討を行っていく。(仮称)学校統合委員会は、改築を伴わない場合は、統合を予定している時期の 2 年前に設置する。改築を伴う場合は、1 校の改築につき、概ね設計等に 3 年間を要するため、工事を予定している時期の 3 年前に設置することとする。設置の時期については、緊急性や情勢を踏まえて適宜対応するものとする。

(2) 小中学校再編の流れ

1) 前期における再編の流れ

前期5か年においては、小学校の過小規模校の解消を図るとともに、本市における適正規模を確保することを目的に再編を行う。なお、将来的な児童数の推移などを考慮し、市の適正規模の確保が困難となったときは、適正規模となるよう再編を行う。また、小学校の校舎等は、新耐震基準施行（昭和56年）以降の建物が多いことから、再編後も既存校舎を活用し、改修期が迫っている学校については、前期において改修するものとする。

平成25年度推計による小学校の学校規模区分

■過小規模校

小場小、塩田小、檜沢小、隆郷小、八里小

■小規模校

村田小、大場小、上野小、大宮小、大賀小、玉川小、世喜小、山方小、山方南小、小瀬小、(仮)御前山小

■適正規模校

大宮西小

前項を踏まえ、学校規模の適正化を図るため、以下の学校について統合を行う。

地 域	対象校	新校の位置
大 宮 地 域	村田小学校・小場小学校	村田小学校の位置
	大場小学校・大宮西小学校	大宮西小学校の位置
	大宮小学校・世喜小学校	大宮小学校の位置
	玉川小学校・塩田小学校	玉川小学校の位置
美 和 地 域	檜沢小学校・隆郷小学校	隆郷小学校の位置
緒 川 地 域	小瀬小学校・八里小学校	小瀬小学校の位置

2) 後期における再編の流れ

後期5か年においては、小学校の適正規模化と適正配置を踏まえ、本市における中学校の適正規模を確保することを目的とする。なお、中学校の校舎等は、建築年数も経過し、老朽化が著しく、耐震性が低い建物もあることから、再編にあわせ計画的に耐震補強・改築工事を行うものとする。特に改築の際には、再編後の生徒数の動向を見越し、適切な施設規模となるよう配慮するものとする。

平成 30 年度推計による中学校の学校規模区分

■過小規模校

第一中、山方中、美和中、緒川中、御前山中

■小規模校

第二中

■適正規模校

大宮中

前項を踏まえ、以下の学校について、当該地域の学校規模の適正化を図るため、統合を行う。

地域	対象校	新校の位置
大 宮 地 域	大宮中学校・第一中学校	大宮中学校の位置
美 和 地 域 緒 川 地 域 御前山地域	美和中学校・緒川中学校・御前山中学校	緒川中学校の位置

3) 再編後の学校の在り方

小学校 19 校→11 校

地 域	再 編 前	再編後の位置	備 考
大 宮 地 域	村田小・小場小	村田小学校	
	上野小	上野小学校	
	大宮小・世喜小	大宮小学校	
	大賀小	大賀小学校	将来、児童数減少に応じた統合の検討が必要
	玉川小・塩田小	玉川小学校	
	大場小・大宮西小	大宮西小学校	
山 方 地 域	山方小	山方小学校	将来、児童数減少に応じた統合の検討が必要
	山方南小	山方南小学校	
美 和 地 域	檜沢小・隆郷小	隆郷小学校	
緒 川 地 域	小瀬小・八里小	小瀬小学校	
御前山地域	伊勢畑小・野口小・長倉小	(仮称)御前山小学校	

中学校 7 校→4 校

地 域	再 編 前	再編後の位置	備 考
大 宮 地 域	大宮中・第一中	大宮中学校	
	第二中	第二中学校	将来、生徒数減少に応じた統合の検討が必要
山 方 地 域	山方中	山方中学校	将来、生徒数減少に応じた統合の検討が必要
美 和 地 域 緒 川 地 域 御前山地域	美和中・緒川中・御前山中	緒川中学校	

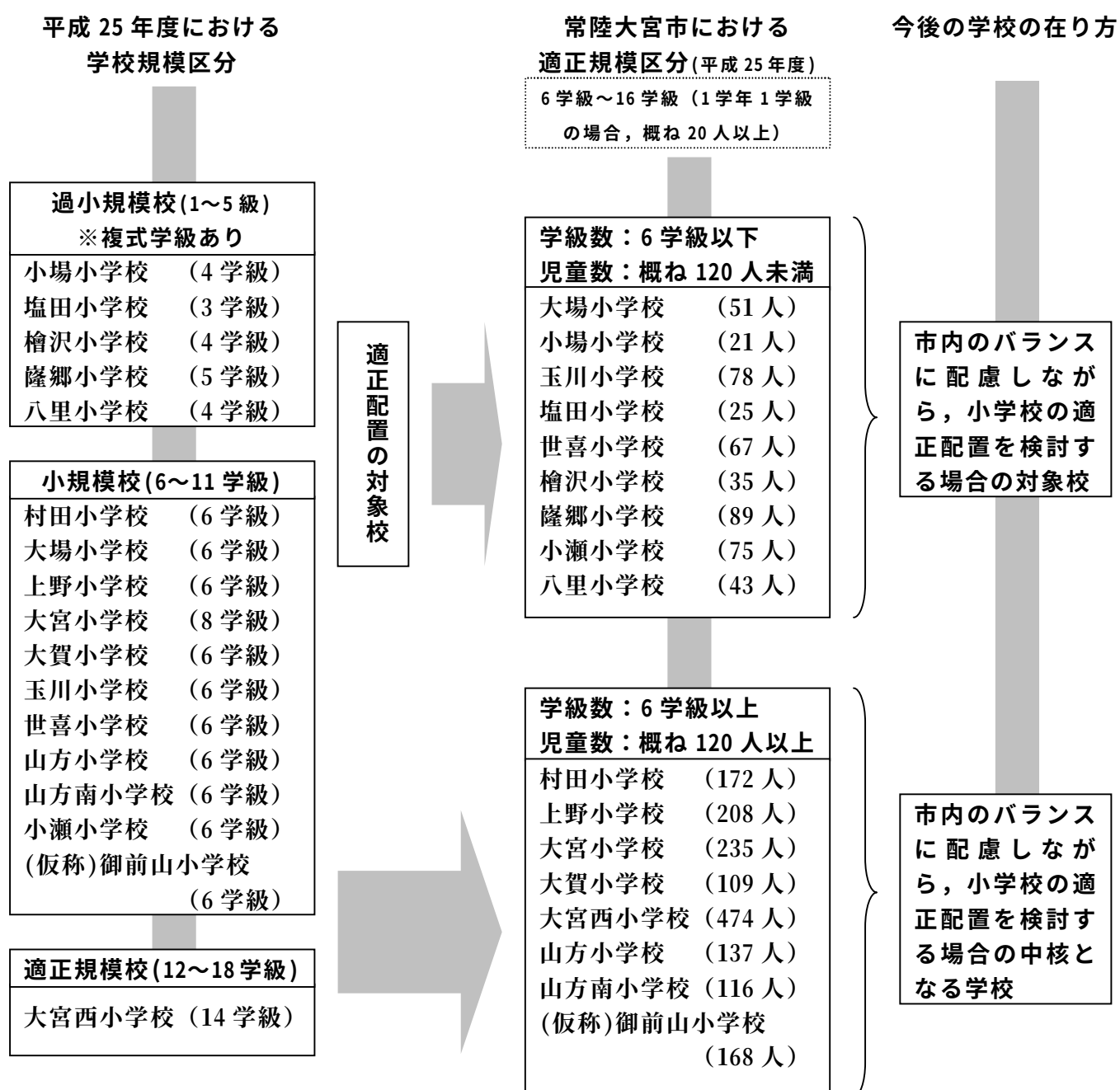
■小学校の適正配置（参考：要約図）

(1) 小学校に対する基本的な考え方

市内の児童数及び学級数の将来推計によると、平成 25 年度に市内の小学校には過大規模校及び大規模校は生じることではなく、5 校が過小規模校、11 校が小規模校、1 校が適正規模校になると予測される。

今後、過小規模校及び小規模校となることが予測される小学校については、適正配置の対象とすべきであり、常陸大宮市における小学校の適正規模となるよう近隣の学校と施設規模や地理的条件などを考慮した上で適正に配置することとする。

(2) 規模別における学校の在り方

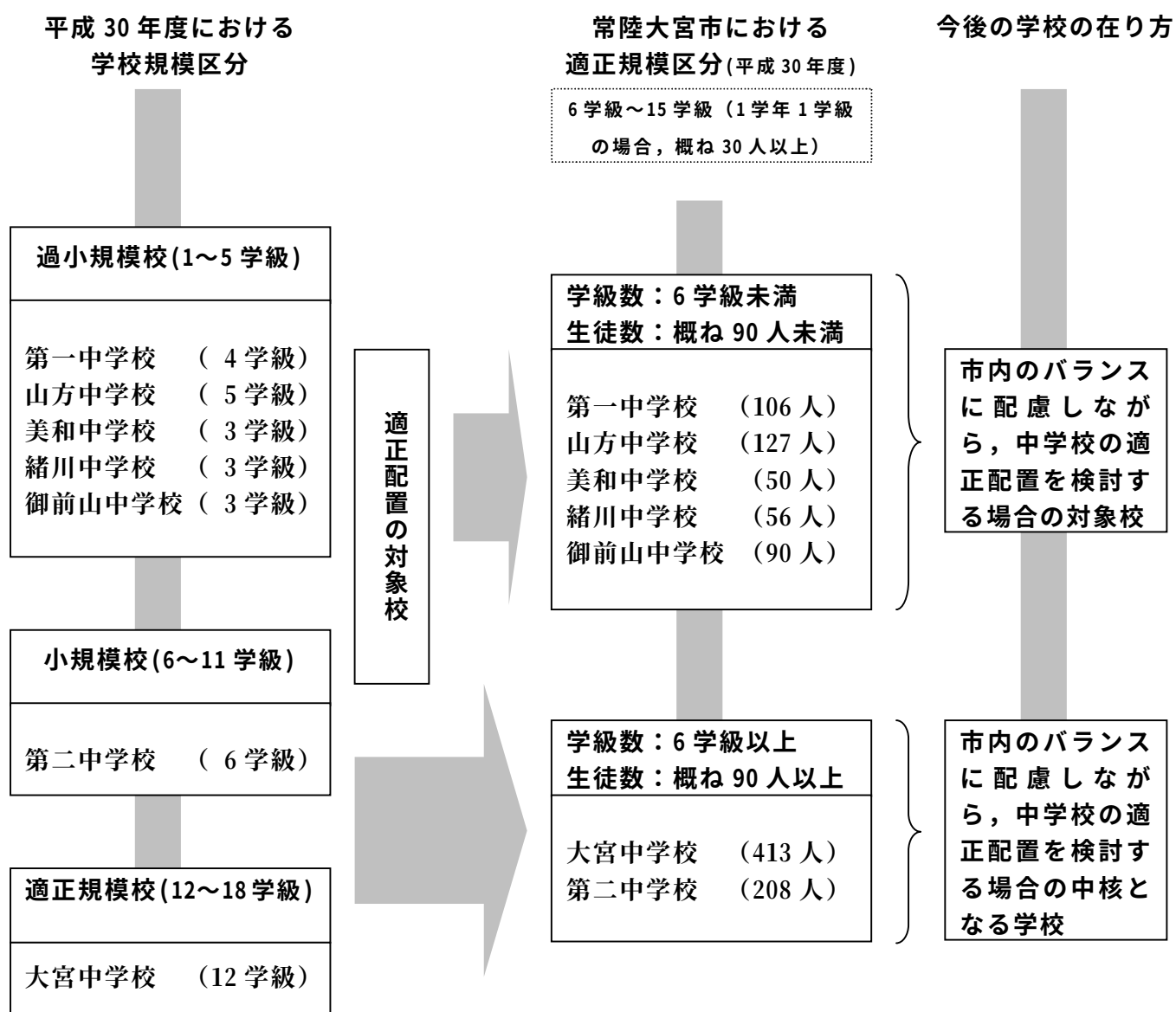


■中学校の適正配置（参考：要約図）

(1) 中学校に対する基本的な考え方

市内の生徒数及び学級数の将来推計によると、平成 30 年度における市内の中学校は、5 校が過小規模校、1 校が小規模校、1 校が適正規模校になると予測される。これらを踏まえ、常陸大宮市における学校規模の適正化を図るために、小学校の再編による通学区を基本とした学区の変更を図ることや、既存の学校施設の状況や生徒の安全確保等を念頭に置いて、学校の統廃合による適正配置を行う。

(2) 規模別における学校の在り方



■小中学校の児童生徒数の推移（再編前）

（１）小学校

複式学級

地域名	学校名	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童
大 宮	村田小	6	154	6	161	6	165	6	163	6	169	6	172
	大場小	6	65	6	69	6	67	6	59	6	61	6	51
	小場小	3	26	3	25	3	20	3	19	3	20	4	21
	上野小	8	236	7	223	7	223	7	222	7	213	6	208
	大宮小	12	309	11	294	11	285	10	268	9	252	8	235
	大賀小	6	160	6	155	6	141	6	139	6	122	6	109
	玉川小	6	101	6	92	6	89	6	88	6	81	6	78
	塩田小	4	42	4	37	3	32	3	33	3	29	3	25
	世喜小	6	89	6	83	6	81	6	75	6	73	6	67
	大宮西小	13	446	13	442	13	453	14	469	14	478	14	474
山 方	山方小	6	166	6	162	6	155	6	151	6	144	6	137
	山方南小	6	138	6	137	6	137	6	136	6	124	6	116
美 和	檜沢小	4	31	4	35	4	32	4	34	4	36	4	35
	隆郷小	6	130	6	132	6	125	6	118	6	101	5	89
緒 川	小瀬小	6	137	6	119	6	108	6	100	6	83	6	75
	八里小	6	70	6	58	5	59	5	52	5	47	4	43
御前山	伊勢畑小	4	35	4	35	4	35	3	30	4	31	4	33
	野口小	6	61	5	66	5	68	5	69	5	72	6	73
	長倉小	6	73	6	72	6	76	6	70	6	67	5	62
合 計		120	2,469	117	2,397	115	2,351	114	2,295	114	2,203	111	2,103

（２）中学校

学校名	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒
大宮中	12	409	13	433	13	439	14	466	13	437	13	452	12	443	12	451	12	434	12	428	12	413
第一中	6	160	6	152	6	155	6	154	6	158	6	148	6	149	5	126	4	114	4	111	4	106
第二中	6	207	6	203	6	204	6	215	6	215	6	201	6	201	6	194	6	207	6	203	6	208
山方中	6	188	6	171	6	176	6	161	6	158	5	136	5	143	5	141	6	156	6	144	5	127
美和中	4	112	4	103	4	99	3	77	3	80	3	81	3	84	3	87	3	76	3	68	3	50
緒川中	5	121	5	123	4	116	4	115	3	103	3	100	3	92	3	74	3	67	3	60	3	56
御前山中	3	101	3	102	3	92	3	95	3	93	3	92	3	74	3	80	3	87	3	95	3	90
合 計	42	1,298	43	1,287	42	1,281	42	1,283	40	1,244	39	1,210	38	1,186	37	1,153	37	1,141	37	1,109	36	1,050

■小中学校の児童生徒数の推移（再編後）

（１）小学校

地域名	学校名	利用する学校	普 通 教室数	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
				学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童
大 宮	村田小 小場小	村田小	6	6	180	6	186	6	185	6	182	6	189	6	193
	上野小	上野小	12	8	236	7	223	7	223	7	222	7	213	6	208
	大宮小 世喜小	大宮小	21	12	398	12	377	12	366	12	343	12	325	12	302
	大賀小	大賀小	9	6	160	6	155	6	141	6	139	6	122	6	109
	玉川小 塩田小	玉川小	6	6	143	6	129	6	121	6	121	6	110	6	103
	大宮西小 大場小	大宮西小	14	16	511	16	511	16	520	16	528	17	539	16	525
山 方	山方小	山方小	9	6	166	6	162	6	155	6	151	6	144	6	137
	山方南小	山方南小	7	6	138	6	137	6	137	6	136	6	124	6	116
美 和	隆郷小 檜沢小	隆郷小	12	6	161	6	167	6	157	6	152	6	137	6	124
緒 川	小瀬小 八里小	小瀬小	8	7	207	6	177	6	167	6	152	6	130	6	118
御前山	伊勢畑小 野口小 長倉小	新設	6	6	169	6	173	6	179	6	169	6	170	6	168
合 計	19校	11校	110	85	2,469	83	2,397	83	2,351	83	2,295	84	2,203	82	2,103

（２）中学校

学校名	利用する学校	普 通 教室数	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
			学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒
大宮中 第一中	大宮中	18	17	620	16	595	17	600	17	592	17	577	16	548	15	539	14	519
第二中	第二中	9	6	215	6	215	6	201	6	201	6	194	6	207	6	203	6	208
山方中	山方中	18	6	161	6	158	5	136	5	143	5	141	6	156	6	144	5	127
美和中 緒川中 御前山中	緒川中	10	9	287	9	276	9	273	8	250	7	241	6	230	6	223	6	196
合 計	4校	55	38	1,283	37	1,244	37	1,210	36	1,186	35	1,153	34	1,141	33	1,109	31	1,050

(3) 小中学校再編

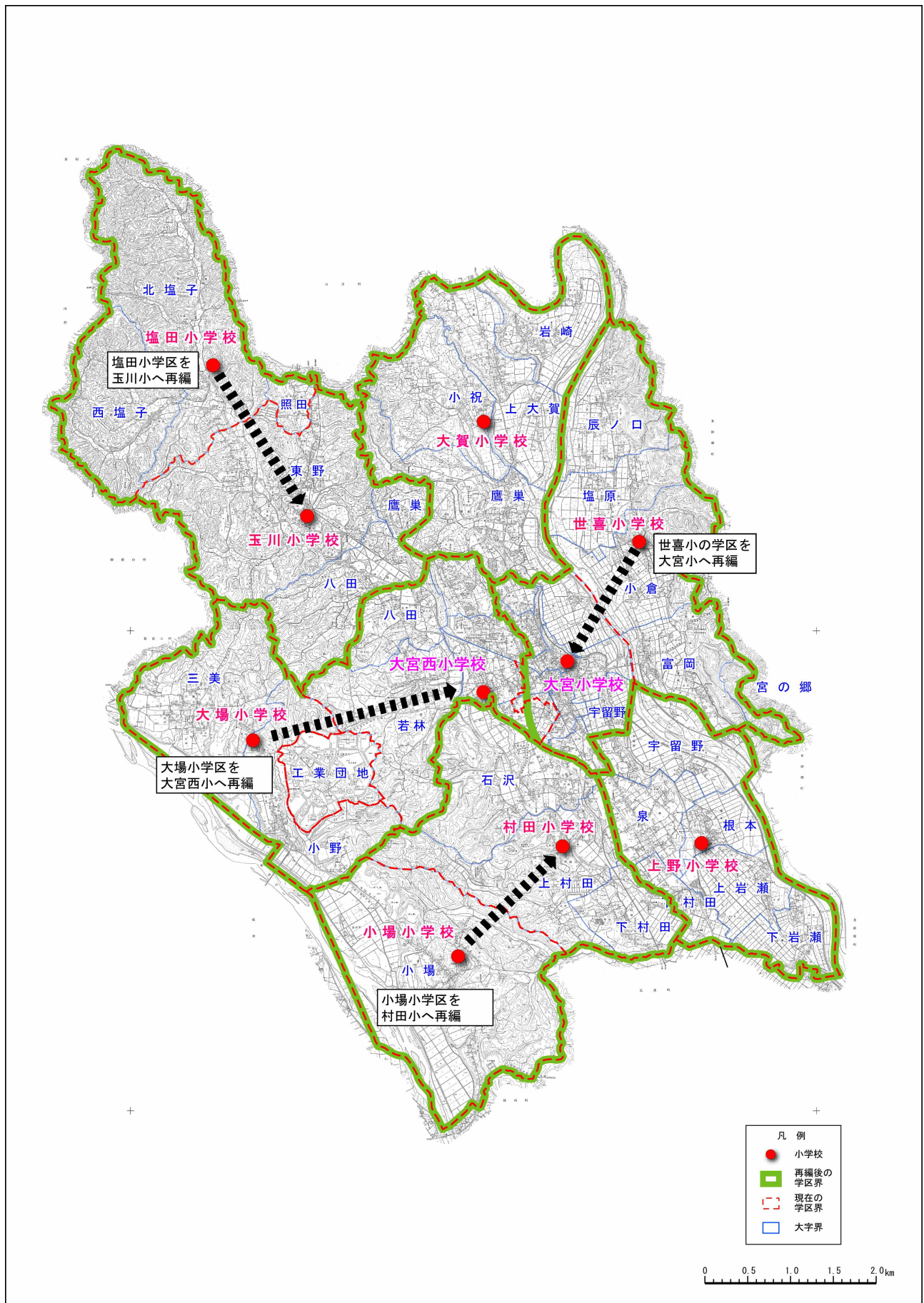
地域	小学校														中学校																																							
	学校名	児童数 (H20)		児童数 (H25)		①地域区分	②施設規模		③地理的条件						学区再編案		再編後児童数 (H25)		学校名	生徒数 (H20)		生徒数 (H30)		学区再編案	再編後生徒数 (H30)																													
		学級	児童数	学級	児童数				字	対象 児童数	鉄 道	道 路 (R118)	字単位で見た課題	その他			学級	児童数		学級	生徒数	学級	生徒数		学級	生徒数																												
大宮地域	村田小学校	6	154	6	172	10校を再編することで、 地域区分に応じた学校配置 が可能である。	村田 小場	既存の小学校を活用し、2校を統合することで適正規模に準じた教育環境を整備することが可能	石沢	70			現在の学区を統合することが妥当である。	幹線道路が整備されており、スクールバス等による通学支援を行えば適正な再編が可能	村田小と小場小の学区を統合する。	6	193	第二中学校	6	207	6	208	第二中学校	6	208																													
	上村田	68																																																				
	下村田	34																																																				
	小場	21																																																				
	上野小学校	8	236	6	208		上野	既存の小学校を活用し、現在の学区を維持することで適正規模に準じた教育環境を整備することが可能	宇留野	36			下村田地区に、村田小と重複する学区があるが、森で分断されており現在の学区を維持することが妥当である。		現状維持	6	208	現状維持、但し、将来 生徒数減少に応じた統 廃合に向けた検討が必要																																				
	泉	125																																																				
	根本	7																																																				
	上岩瀬	24																																																				
	大場小学校	6	65	6	51		大場 大宮西	既存の小学校を活用し、2校を統合することで適正規模に準じた教育環境を整備することが可能	下岩瀬	5	学区内を通過	学区を分断	中富町については、R118を挟んで、大宮小学校の学区と入り組んだ構造となっており、再編・整理の必要性が高い。	幹線道路が整備されており、スクールバス等による通学支援を行えば適正な再編が可能	大宮西小と大場小の学区を統合する。	16	525	大宮中学校	12	409	12	413	大宮中学校	14	519																													
	大宮西小学校	13	446	14	474				小野	13																八田(坪ノ内他)	9	若 林	95	田子内町	173	野中町	65	抽ヶ台	80	中富町	52																	
	大宮小学校	12	309	8	235				大宮	既存の小学校を活用し、2校を統合することで適正規模に準じた教育環境を整備することが可能																三美	38	学区内を通過	学区を分断	世喜小は、大宮小と再編することで、適正な規模を維持する。	幹線道路が整備されており、スクールバス等による通学支援を行えば適正な再編が可能	大宮小と世喜小の学区を統合する。	12	302	第一中学校	6	160	4	106															
																										大宮小学校	12																309	8	235	大宮	28	高渡町	0	東富町	21	中富町（西町）	5	北町
大宮小学校						12	309	8			235	大宮	28	高渡町	0	東富町	21	中富町（西町）	5	北町	12	下町	29	上町	19	南町	48																宇留野（上宿）	10	柴町	63	小倉	16	富岡	19	辰ノ口	12	塩原	20
大宮小学校						12	309	8			235	大宮	28	高渡町	0	東富町	21	中富町（西町）	5	北町	12	下町	29	上町	19	南町	48																宇留野（上宿）	10	柴町	63	小倉	16	富岡	19	辰ノ口	12	塩原	20
大宮小学校						12	309	8			235	大宮	28	高渡町	0	東富町	21	中富町（西町）	5	北町	12	下町	29	上町	19	南町	48																宇留野（上宿）	10	柴町	63	小倉	16	富岡	19	辰ノ口	12	塩原	20
大宮小学校						12	309	8			235	大宮	28	高渡町	0	東富町	21	中富町（西町）	5	北町	12	下町	29	上町	19	南町	48																宇留野（上宿）	10	柴町	63	小倉	16	富岡	19	辰ノ口	12	塩原	20
大宮小学校						12	309	8			235	大宮	28	高渡町	0	東富町	21	中富町（西町）	5	北町	12	下町	29	上町	19	南町	48																宇留野（上宿）	10	柴町	63	小倉	16	富岡	19	辰ノ口	12	塩原	20
大宮小学校						12	309	8			235	大宮	28	高渡町	0	東富町	21	中富町（西町）	5	北町	12	下町	29	上町	19	南町	48																宇留野（上宿）	10	柴町	63	小倉	16	富岡	19	辰ノ口	12	塩原	20
世喜小学校	6	89	6	67	世喜	既存の小学校を活用し、2校を統合することで適正規模に準じた教育環境を整備することが可能	大賀小学校	6			現状維持、但し将来児童数減少に応じた玉川小との統合に向けた検討が必要	6	109																																									
大賀小学校	6	160	6	109			大賀	13															小祝	16	上大賀	15	鷹巣	65																										
玉川小学校	6	101	6	78			玉川 塩田	既存の小学校を活用し、2校を統合することで適正規模に準じた教育環境を整備することが可能															東野	48					玉川小と塩田小の学区を統合する。但し、将来児童数減少に応じた大賀小との統合に向けた検討が必要	6	103																							
塩田小学校	4	42	3	25																			八田	19													鷹巣（大阪平）	11	北塩子	21	西塩子	3	照田	1										

地域	小学校										中学校								
	学校名	児童数（H20）		児童数（H25）		①地域区分	②施設規模	③地理的条件	学区再編案	再編後児童数（H25）		学校名	生徒数（H20）		生徒数（H30）		学区再編案	再編後生徒数（H30）	
		学級	児童数	学級	児童数					学級	児童数		学級	生徒数	学級	生徒数		学級	生徒数
山方地域	山方小学校	6	166	6	137	現在の学区を維持することで、地域区分に応じた学校配置が可能	既存の小学校を活用し，現在の学区を維持することで適正規模に準じた教育環境を整備することが可能	スクールバスによる通学支援を引き続き実施	現在の小学校を活用し，適正規模を維持する。但し，将来児童数減少に応じた2校の統廃合に向けた検討が必要	6	137	山方中学校	6	188	5	127	山方中学校 〔現状維持，但し，将来生徒数減少に応じた統廃合に向けた検討が必要〕	5	127
	山方南小学校	6	138	6	116	現在の学区を維持することで、地域区分に応じた学校配置が可能	既存の小学校を活用し，現在の学区を維持することで適正規模に準じた教育環境を整備することが可能	スクールバスによる通学支援を引き続き実施	現在の小学校を活用し，適正規模を維持する。但し，将来児童数減少に応じた2校の統廃合に向けた検討が必要	6	116								

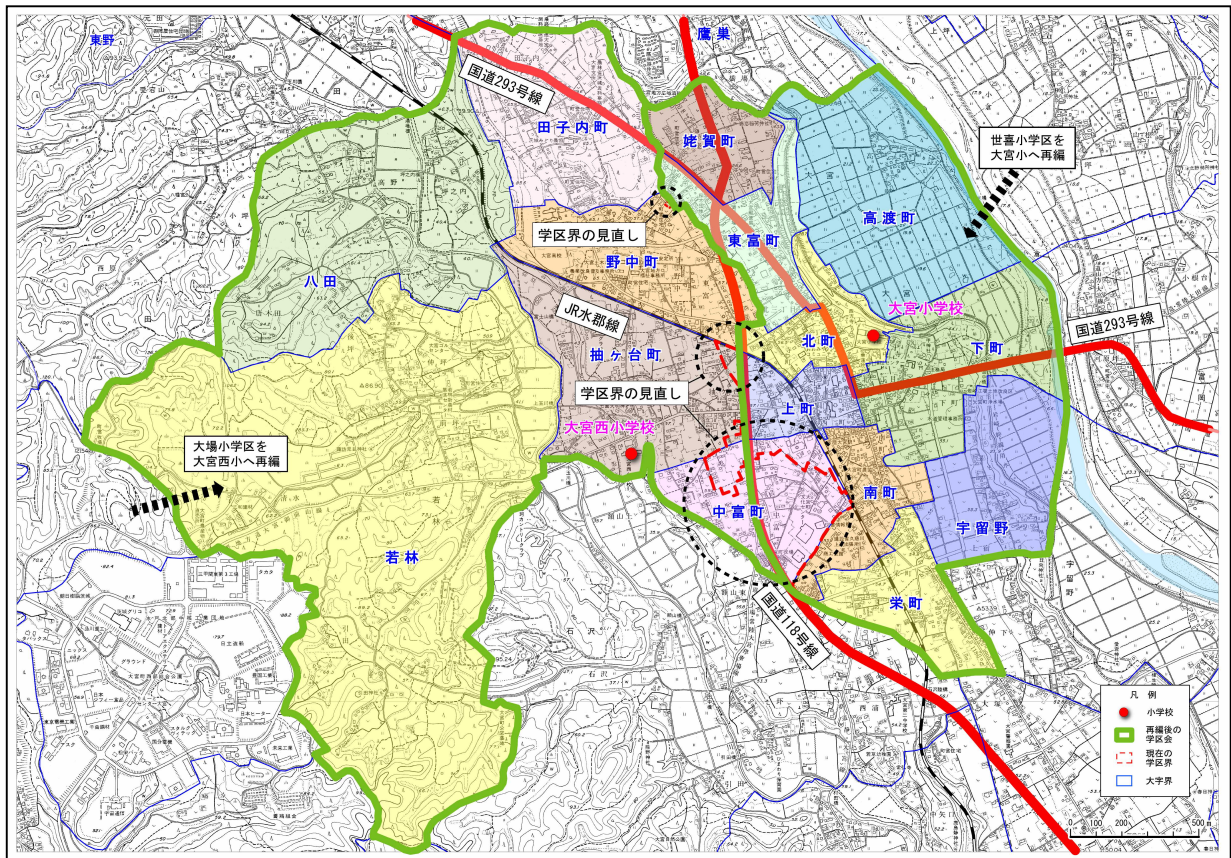
地域	小学校										中学校								
	学校名	児童数（H20）		児童数（H25）		①地域区分	②施設規模	③地理的条件	学区再編案	再編後児童数（H25）		学校名	生徒数（H20）		生徒数（H30）		学区再編案	再編後生徒数（H30）	
		学級	児童数	学級	児童数					学級	児童数		学級	生徒数	学級	生徒数		学級	生徒数
美和地域	檜沢小学校	4	31	4	35	2校を統合することで、地域区分に応じた学校配置が可能	既存の小学校を活用し、地域内に小学校を1校確保することで、適正規模に準じた教育環境を整備することが可能	幹線道路が整備されており、引き続きスクールバス等による通学支援を行えば適正な再編が可能	美和地域に小学校を1校配置する。	6	124	美和中学校	4	112	3	50	緒川中学校 (3校を統合)	6	196
	隆郷小学校	6	130	5	89														
緒川地域	小瀬小学校	6	137	6	75	2校を統合することで、地域区分に応じた学校配置が可能	既存の小学校を活用し、地域内に小学校を1校確保することで、適正規模に準じた教育環境を整備することが可能	幹線道路が整備されており、引き続きスクールバス等による通学支援を行えば適正な再編が可能	緒川地域に小学校を1校配置する。	6	118	緒川中学校	5	121	3	56			
	八里小学校	6	70	4	43														
御前山地域	伊勢畑小学校	4	35	4	33	3校を統合することで、地域区分に応じた学校配置が可能	地域内に小学校を1校確保することで、適正規模に準じた教育環境を整備することが可能	幹線道路が整備されており、スクールバス等による通学支援を行えば適正な再編が可能	御前山地域に小学校を1校配置する。	6	168	御前山中学校	3	101	3	90			
	野口小学校	6	61	6	73														
	長倉小学校	6	73	5	62														

1) 小学校の再編

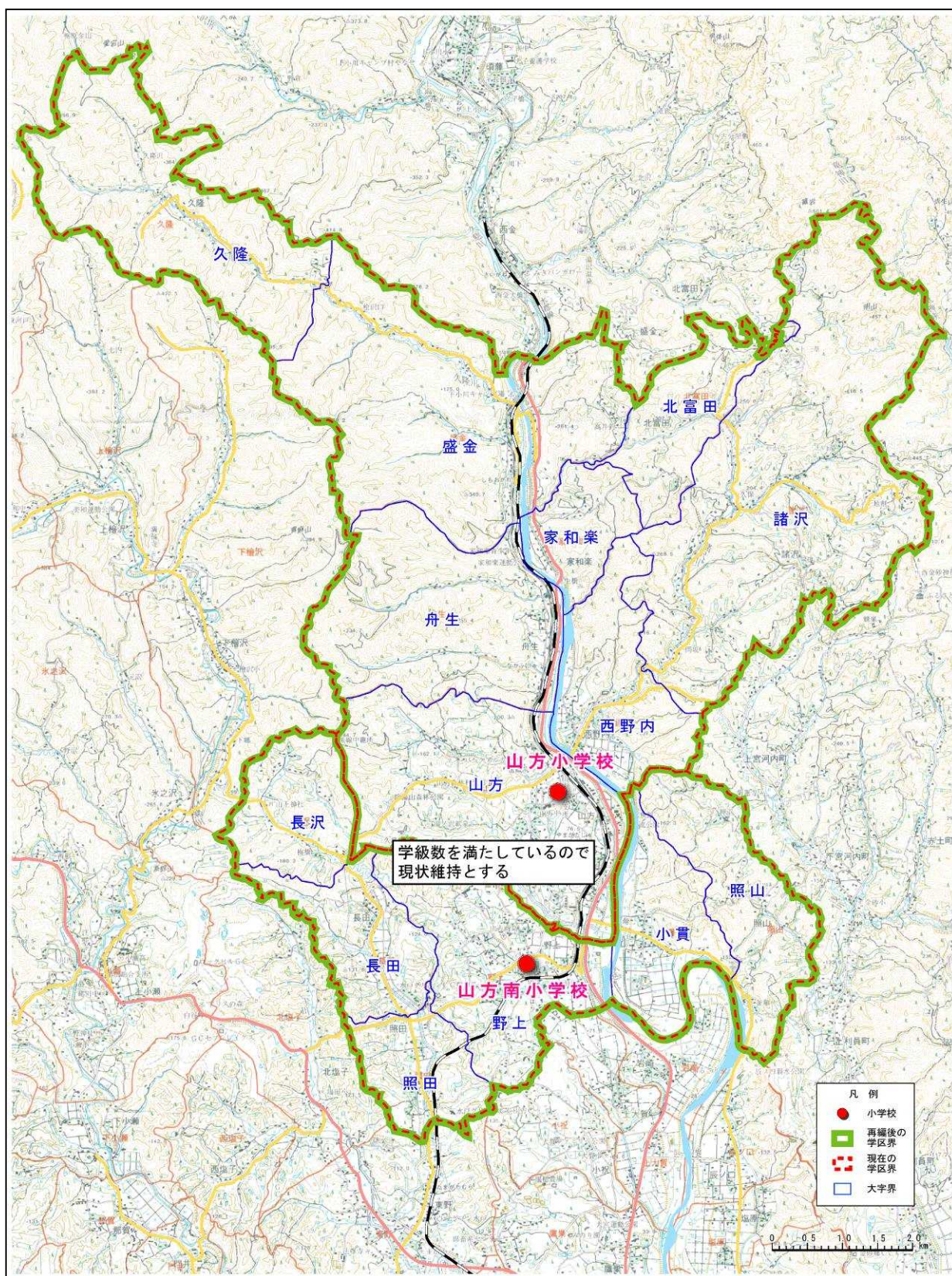
■大宮地域の再編



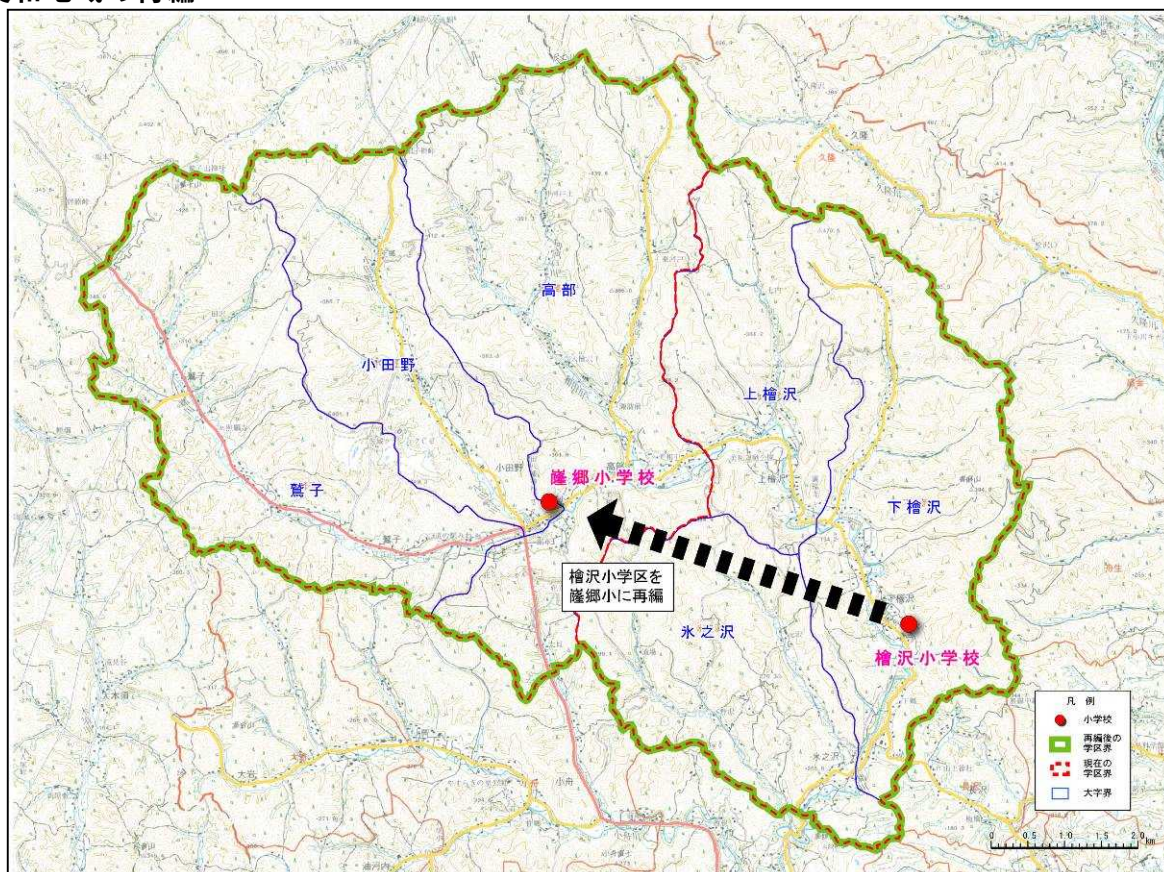
(市街地の再編)



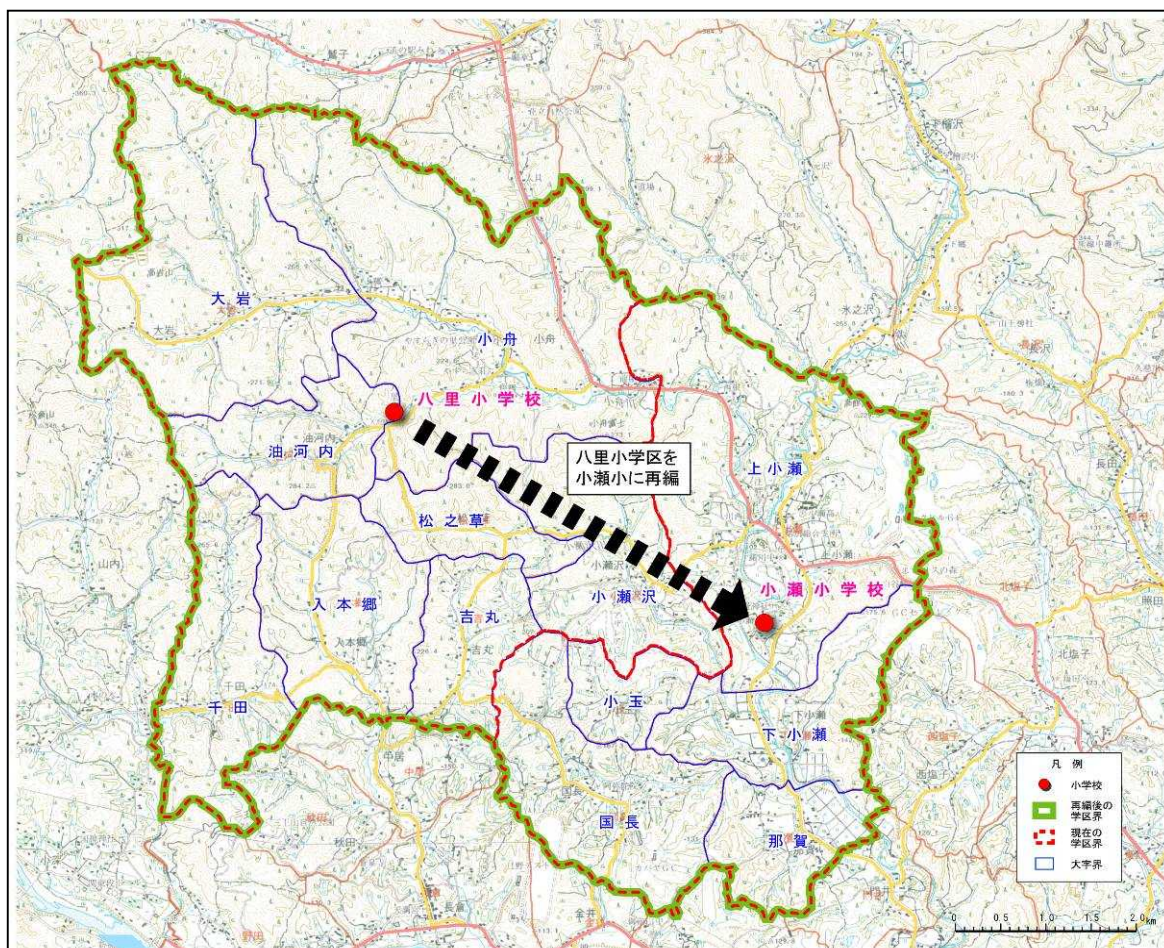
■山方地域の再編



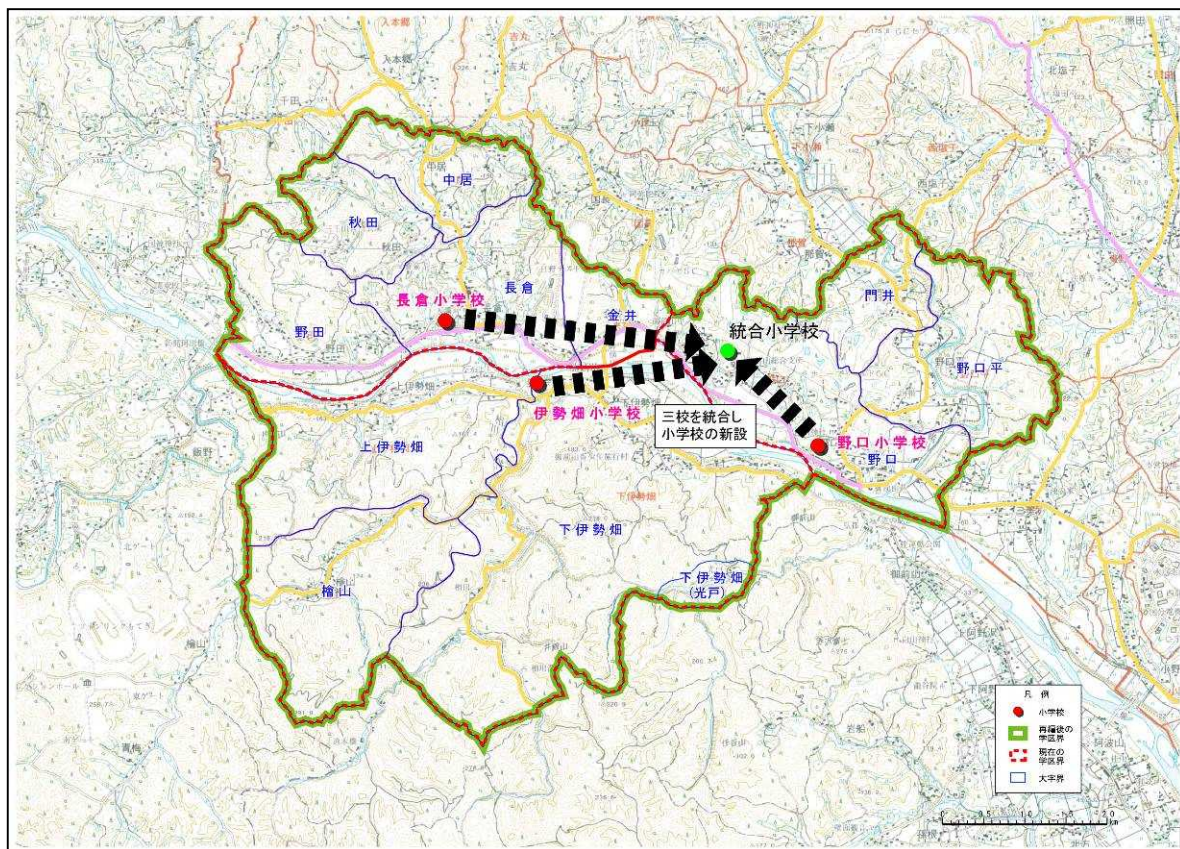
■美和地域の再編



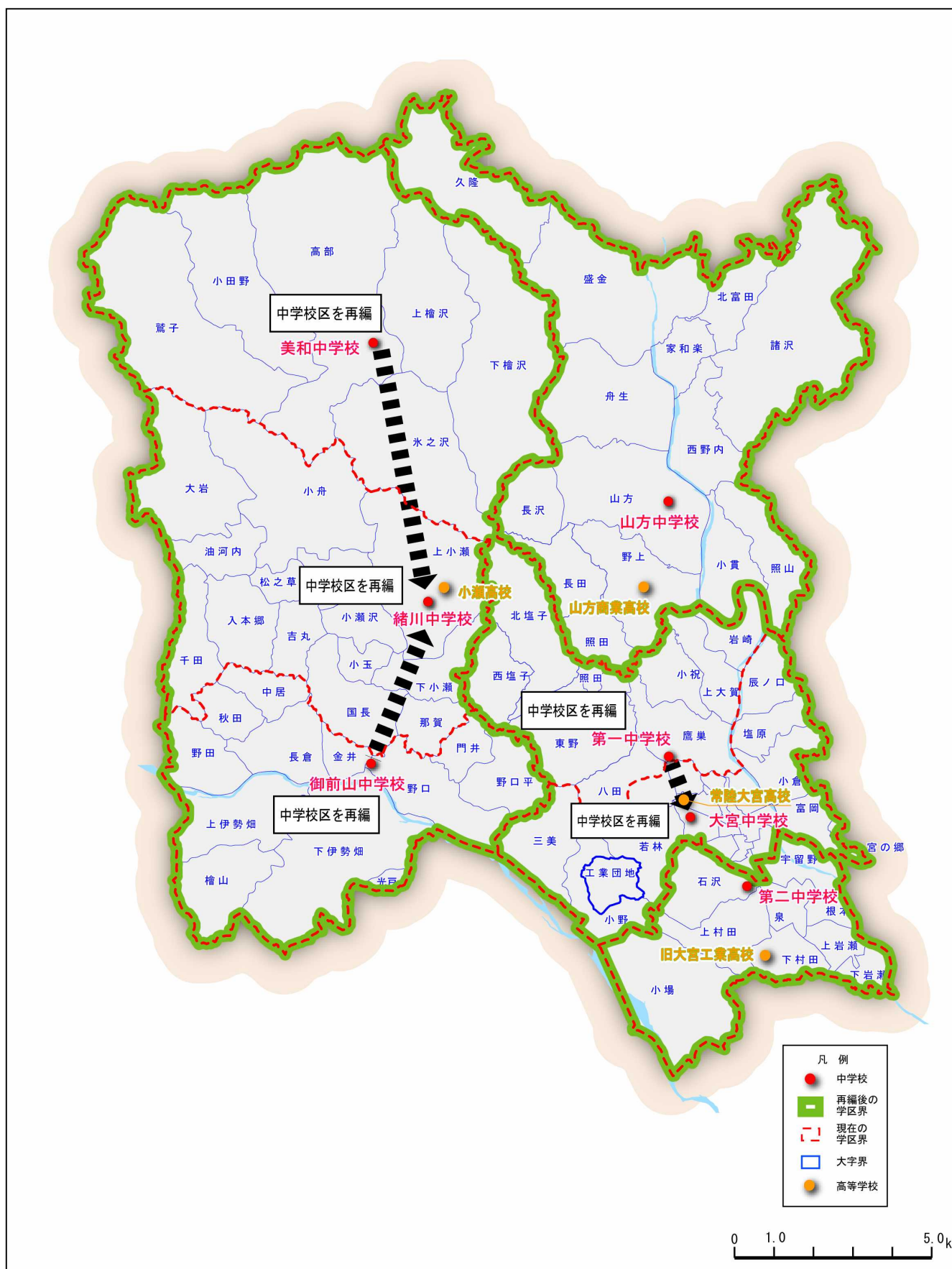
■緒川地域の再編



■御前山地域の再編



2) 中学校の再編



(4) 小中学校再編のスケジュール

学校名 (校舎建築年)		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		実施計画			前 期			後 期				
小学校	村田小 小堀小 の統合 (村田小－ H16)	統合に関する 準備・説明		統 合								
	上野小 (H元)	現状維持						校舎外壁塗装・防水				
	大宮小 世喜小 の統合 (大宮小－ S57)	校舎外壁塗装・防水			統合に関する 準備・説明		統 合					
	大賀小 (S61)	現状維持			校舎外壁塗装・防水							
	玉川小 塩田小 の統合 (玉川小－ S62)	統合に関する 準備・説明		統 合		校舎外壁塗装・防水						
	大宮西小 大場小 の統合 (大宮西小－ S55)	耐震診断		補強設計 実施設計	耐震補強 大規模改修	統合に関する 準備・説明		統 合				
	山方小 (H元)	現状維持						校舎外壁塗装・防水				
	山方南小 の改修 (山方南－ S54)	現状維持			耐震診断	補強設計 実施設計	耐震補強 大規模改修					
	隆郷小 椿沢小 の統合 (隆郷小－ S51)	耐震診断		補強設計 実施設計	耐震補強 大規模改修							
	小瀬小 八里小 の統合 (小瀬小－ H元)	統合に関する 準備・説明		統 合					校舎外壁塗装・防水			
中学校	伊勢畑小 野口小 長倉小 の統合 (新校設置)	統合に関する 準備・説明		統 合								
	大宮中 (S47)				統合に関する 準備・説明		第一中 と統合	耐力度調査	実施設計	改築工事		
	第二中 (S40) 体育館 (S45)	現状維持				耐力度調査	実施設計	改築工事(校舎・体育館)				
	山方中 (S44)	現状維持		耐力度調査	実施設計	改築工事						
	緒川中 (S48)				統合に関する 準備・説明		耐震診断 美和中 緒川中 御前山中 と統合	補強設計 実施設計	耐震補強 大規模改修			

調査・設計 工事 設計・工事

おわりに

本実施計画は、答申で示された基本計画に基づき、今後の児童生徒数の動向や社会状況の変化などを踏まえ策定した。常陸大宮市教育委員会では、実施計画に位置づけた内容を推進するとともに、次代の常陸大宮市を担う子どもたちの生きる力を育む教育環境づくりを目指すものである。

適正配置の実施にあたっては、全市的な見直しを一斉に行うことは現実的に困難であるため、全体計画を定めたうえで、緊急度の高い地域及び再編環境の整った学校を年次的に進める必要がある。

一方、教育をめぐる環境は絶えず変化しており、学校教育に対するニーズも更なる多様化が見込まれるため、実施計画は随時見直しを図りつつ、今後の国県の動向を注視しながら、社会状況の変化やニーズの多様化に応じて、改編を続けていくことが必要である。

最後に実施計画の推進にあたっては、様々な課題に取り組むこととなるが、地域の特色を活かした再編後のビジョンを描きながら、保護者や地域住民等の関係者の理解と協力を得て、保護者・地域・学校と行政が一体となり、計画実現に向けて努力することが必要である。